

平成二十四年度
技術部業務報告書



大分工業高等専門学校 技術部

巻頭言

校長 古川 明德

高専は、大学と並び高等教育機関の一つで、教員の任務には①教育、②研究、③地域貢献、④国際貢献そして⑤学校運営があります。また技術部も教員と協働して①～⑤の職務を遂行し、高専の活動に重要な役目を果たして戴いています。大分高専では平成20年より、技術部職員が相互補完・連携し合って個々の能力を十分に発揮して頂くことが望ましいとの考えで教育研究支援組織として「技術部」を設けています。昨年度は、技術部長 一宮一夫先生(都市・環境工学科 教授)、技術長 吉岩哲也氏のもと14名の常勤・非常勤の職員により活発な活動が行われました。その1年間の活動概要がここに報告されています。皆様におかれましては、この報告書をご覧下さり、職務①～⑤に対して「技術部」がいかに貢献して頂いているかをご理解頂き、尚一層のご支援とご助言を賜りますようお願い申し上げます。

この場を借りて職務①～⑤について私なりに技術部の1年を総括し、その思いを書かせて頂きますと、次のようになります。まず①教育として、「工学とは人類文明の発展を支える唯一の学問」で技術者には「工学的センス」を身に付けさせることが大切です。それには、教育課程に体系的に組み込まれた実験や演習を通して体得させることが一番であり、技術部職員の指導力の高さが重要となります。昨年度は、技術部の高倉慎氏が電気電子工学科の3名の先生方とともに、エンジニアリングデザイン教育の充実に貢献したことで大分高専教育功労者表彰を受けられました。つぎに②研究では、どんなに計算機が発達し数値シミュレーションが多用されても、その検証には「実験」が必要で研究展開の重要な鍵となります。それゆえ「実験計測装置が完成したらその研究の90%は終わった」とも言われます。そこで先生方にお願いで、装置づくりに技術部の支援を仰いだ場合には、研究成果公表の際には、是非とも技術部職員への謝辞(共著でも)の記載を。そして③地域貢献については地域連携交流センターと連携して、昨年度も活発に行われました。「コンクリート受託試験」は大分高専の外部資金獲得にも貢献度大で、若手教員の研究助成へと繋がっています。今後も高専の設備を利用した外部資金獲得について考えていきたいと思えます。また一方で、子供達への理科授業や社会人への様々な技術研修の開講のお蔭で、「大分高専 ここに在り」と知名度アップになりました。ついでに昨年度、大分高専の産学官連携活動に対して日刊工業新聞社から「モノづくり連携大賞特別賞」を頂戴したことを報告しておきます。さらに⑤国際貢献の分野では、これまで10年間の「足踏みミシン修理・贈呈事業」を通じた実践型教育に対して、技術部の岩本光弘氏に田中孝典先生(都市・環境工学科 教授)とともに九州工学教育協会賞が授与されました。また、その「ボランティア部」が独立行政法人国際交流基金からの「地球市民賞」受賞の荣誉に輝きました。これからも技術部が地域ならび国際貢献に果たす役割は大きいと思っています。最後に⑤学校運営では、学生の課外活動や学内の情報インフラ整備等への技術部の貢献、大変有難く感じております。とくにロボットコンテスト支援では先生方と一緒に献身的な指導を頂戴しており、九州沖縄地区の大会で「優勝にあと一步」というところに達していると認識しております。夢は「全国制覇」です。ご協力のほどよろしくお願い致します。

最後に余計なことですが、校長の私も、ガス溶接技能講習・アーク溶接特別教育並びに玉掛け技能講習・クレーン特区别教育の修了証そしてアマチュア無線技士(4級)の免許を持っております。これからも、技術部職員の免許・資格の取得そして研究会への参加などによる自己研鑽・技能向上にも力を入れていきます。

教職員の皆様がこの技術部業務報告書をご覧頂き、ご理解を戴くことこそ、技術部の尚一層の意欲と技能の向上へと繋がります。ひいては、大分高専の活躍をもたらすものと確信しております。

技術部長挨拶

技術部長 一宮 一夫

技術部長として2年が経過いたしました。就任当初の目標に「技術職員の活動のPR」を掲げてきましたが、自己評価はぎりぎり合格点と思っています。言うまでもなく、技術者育成の教育機関である本校において、技術職員の存在は欠くことのできないものです。特に近年は、実験実習における指導などの従来からの業務に加え、公開講座、ミシンボランティア、高専ロボコン、コンクリート受託試験などを始めとした外部との交流業務が増えてきました。このような技術職員の活躍状況は月に一度の教員会議で全教員にPRをしてきましたので、先生方にも十分に伝わったものと期待しています。その一方で、校内の情報システムの整備に関する業務のPRはほとんど出来ませんでした。私が当該分野の知識に疎いことや、作業が現在進行形であったことが主な理由です。本校でも現代社会同様に情報ネットワークはスムーズに使用して当たり前の時代となっていますが、既存の施設や更新費用、そして将来の発展性を考慮しながらの計画や実施はかなりの労力が必要であったと聞いています。

本報告書には技術職員の様々な業務実績が記載されています。その一方で、情報ネットワーク同様に、文字で表現されていない様々な業務にも取り組んでいただいていますので、本報告書の行間にも気をかけていただけますと幸いです。これからも技術部に対するご理解のほどよろしく願いいたします。

技術長挨拶

技術長 吉岩 哲也

今年度末に長年学生の技術指導を行ってきた技術職員が2名退職する。2人の先導者がいてくれたからこそ、この1年も学生や地域の子供たちや、東南アジアの貧しい子供たちのために、技術部職員それぞれが力を発揮できたと信ずる。特に足踏みミシンボランティアでは沢山の賞を頂き、事業に関係した職員には大きな自信となるし、来年度に向けて良いスタートがきれると思う。また、コンクリート受託試験数も順調に推移し、その予算は技術職員の能力向上や若手教員の研究支援のために有効利用された。他にも各種委員会に所属し、目に見えない箇所でもその能力を遺憾なく発揮できた。

来年度からは新人職員2名を迎え、新しい体制で業務を行う事となる。先輩から受け継いだ業務に加え、大分高専ならではの業務にも積極的に取り組む、良い節目の1年だったと思う。

この場をお借りして、この1年間ご指導頂いた教員の皆様や、事務部の皆様に厚くお礼申し上げます。

目次

巻頭言	校 長	古川 明德
技術部長あいさつ	技術部長	一宮 一夫
技術長あいさつ	技 術 長	吉岩 哲也

1. 技術部組織と運営.....1	
組織	
専門分野および担当一覧	
2. 室業務.....3	
設計創造室	
解析構造室	
情報基盤室	
計測処理室業務	
3. 技術部関連業務.....5	
足踏みミシンボランティア活動	
ロボットコンテスト支援	
電気工事士実技講習	
4. 地域連携交流センター関連業務.....8	
コンクリート受託試験	
科学と遊ぼう！in 山香小学校	
科学と遊ぼう！in 真坂小学校	
科学と遊ぼう！in 坂ノ市小学校	
科学と遊ぼう！in 松岡小学校	
科学と遊ぼう！in 臼杵おもしろ科学クラブ	
公開講座 「衛星データ利用講座」	
青少年のための科学の祭典大分大会 in 大分	
大分市産業活性化プラザ中小企業支援講座	
第7回おおいた協働ものづくり展	
とよのまなびコンソーシアムおおいた連携講座「PowerPoint 講座」	
5. 依頼業務.....13	
6. 研修・出張報告.....14	
第1回ネットワーク管理者研修会	
九州5高専校内LAN共同調達仕様策定委員会	
平成24年度西日本地域高等専門学校技術職員特別研修会（建築・環境系）	
平成24年度全国高専教育フォーラム	
九州沖縄地区国立工業高等専門学校技術職員研修（電気・電子系，情報系）	
九州沖縄地区国立大学法人等技術職員スキルアップ研修A	
全国国立大学法人等情報化発表会	
九州地区ファイアウォールのハンズオントレーニング	
平成24年度九州地区国立大学法人等事務情報化担当者連絡会議	
国立高等専門学校機構 情報担当者研修会	
平成24年度情報セキュリティセミナー	
第8回情報技術研究会	
7. 資料.....22	
大分工業高等専門学校技術部規程	
大分工業高等専門学校技術部運用内規	
技術職員が取得している資格・免許・国家試験合格者など	
技術部業務報告書作成にあたっての取り決め事項	

1. 技術部組織と運営

技術長 吉岩 哲也

◆組織

前技術長である藤本技術専門職員が定年退職され、今年度から前次長の吉岩技術専門職員が技術長となり、同じく前解析構造室長の山崎技術専門職員（地域連携担当）・前情報基盤室長の衛藤技術専門職員（予算担当）が次長になった。

また、1月7日付けで、新たに松崎技術職員が採用された（設計創造室）。

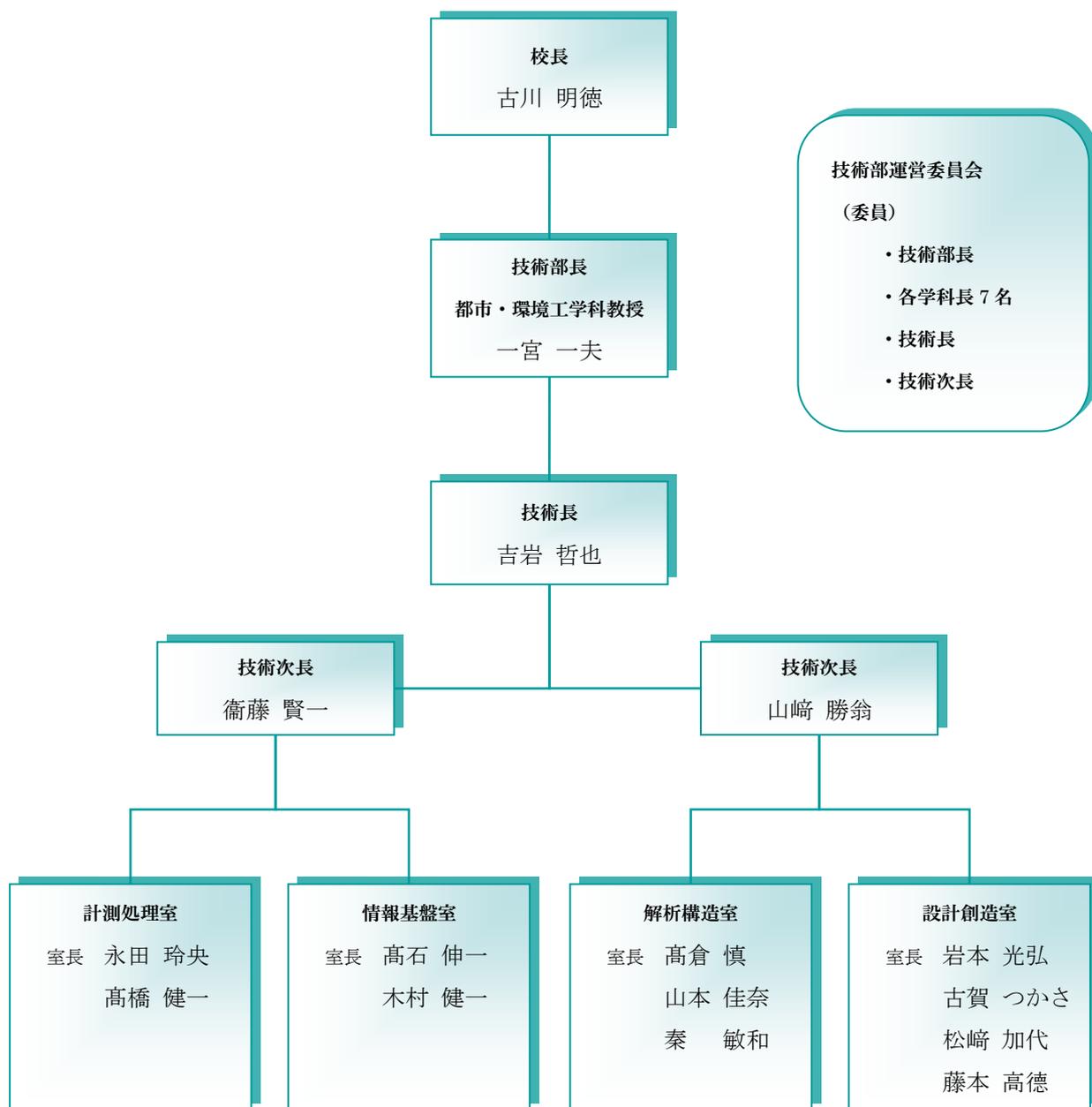


図 1 技術部組織図

◆専門分野および担当一覧

表 1 技術部職員と専門分野など

	名前	専門分野	関係 学科	学科業務以外で担当する業務，各種委員， センター活動等
技術部長	一宮	コンクリート構造 学，環境材料学	C	地域連携交流センター長
技術長	吉岩	水理，港湾，情報 設計工学	C	コンクリート受託試験，C科チームリーダー
技術次長	山崎	電気回路 機械工作 CAD/CAM	S	地域連携交流センター委員，苦情処理相談員，S 科チームリーダー
技術次長	衛藤	情報工学関連	M,E, S,C	情報センター管理，電子掲示板管理，学校 HP 委 員，技術部運営費管理，総合情報システム委員， 苦情処理相談員
設計創造室長	岩本	機械工作 CAD/CAM	M	M科チームリーダー，足踏みミシン活動，機械 工場管理
設計創造室員 (育児休暇中)	古賀	機械工作 CAD/CAM	M	機械工場管理，足踏みミシン活動，コンクリート 受託試験
設計創造室員 (H25.1 採用)	松崎	電気電子回路 電気機器	E	足踏みミシン活動
設計創造室員	藤本	電気電子回路 電気機器	E	E科チームリーダー，苦情相談員， 電気工事士受験指導責任者，足踏みミシン活動
解析構造室長	高倉	電子回路 電気機器	E	コンクリート受託試験，電気工事士受験指導， 専攻科学生用 PC 管理，ロボコン支援，地域連携 交流センター委員
解析構造室員	山本	衛生工学，測量学 土質力学	C	コンクリート受託試験
解析構造室員	秦	材料工学，測量学 コンクリート工学	C	ロボコン支援委員，コンクリート試験場責任者
情報基盤室長	高石	電気電子回路	S	ネットワーク管理，環境科学技術センター運営委 員，環境・省エネ PT 委員
情報基盤室員	木村	情報工学 物理化学	M,E, S,C	ネットワーク管理，科学部支援，総合情報システ ム委員，情報セキュリティ推進委員
計測処理室長	永田	情報工学	S,E	コンクリート受託試験，技術部 HP 管理，足踏み ミシン活動
計測処理室員	高橋	機械工作 CAD/CAM	M	ロボット研究部顧問，機械工場管理，技術部 HP 管理，コンクリート受託試験

M：機械工学科，E：電気電子工学科，S：情報工学科（制御情報工学科），C：都市・環境工学科

2. 室業務

◆設計創造室

設計創造室長 岩本 光弘

設計創造室は、室員 4 名体制で行っており、その内訳として、常勤 3 名、非常勤 1 名である。

業務としては主に、機械工場の運営に携わっており、「機械工場設備・器具使用願い」を提出させ管理している。また、使用者が安全に使えるように、工作機械の維持・管理にも勤めている。他に、足踏みミシンボランティア活動等の事業や、実技講習にも携わっている。

室員の業務として、機械工学科系では工学実験および機械実習を担当しており、機械加工の基礎から NC 加工、製図から 3 次元 CAD、高学年では専門性の高い工学実験まで幅広く対応している。

新人 1 名が加わった電気電子工学科系では、主に工学実験を担当しており、夏休み期間中に実施される電気工事士実技講習の業務も行っている。

足踏みミシンボランティア活動では、学年学科問わず有志で集まった足踏みミシンボランティア学生に技術指導を行い、足踏みミシンボランティア事業では、フィリピンのマカティに足踏みミシンを贈呈し、現地で足踏みミシンの修理指導を学生と共に行った。

◆解析構造室

解析構造室長 高倉 慎

解析構造室は、高倉、山本、秦の 3 名体制となっている。技術職員最年長者や女性技術職員と顔ぶれは多彩である。工学実験では、都市・環境工学科、電気電子工学科、専攻科、物理学実験等を担当し、それ以外の業務としては、コンクリート受託試験等を担当している。

コンクリート受託試験では他の室（吉岩、永田、高橋、古賀）の方々の協力もあり、順調な実績を上げ、その収入は技術職員の資質向上の為の予算は元より、学内の若手研究者の為の助成金としても使用されている。

山本技術職員がコンクリート技士の資格を取得し、解析構造室全員が有資格者となった。

◆情報基盤室

情報基盤室長 高石 伸一

情報基盤室では、主に校内ネットワークの維持管理や情報演習室の管理を衛藤次長と共に行っている。また、校内ユーザのネットワークやパソコンに関するトラブルの対応も併せて行っている。

本年度末に校内ネットワーク機器の更新が行われ、サーバやスイッチなどが一新された。機器更新に際し、認証に対応したネットワーク設計やネットワークに接続している端末情報の整理を行った。

また、来年度初めに導入予定のネットワーク認証システムの仕様策定を行っている。

・総合情報センター支援業務

1. ユーザアカウント管理

新1年生（本科，専攻科），編入学生，教職員のアカウントの登録を行った。また，パスワードを忘れたユーザのパスワードの再発行を行った。

2. 専攻科性の勤務管理

時間外（16:45～19:45）に演習室を管理する専攻科生の勤務管理を行った。

・校内ネットワーク管理業務

1. 定常業務

・ユーザ管理

教職員のメールアカウントの登録・抹消を行った。

・ホスト管理

サーバ・ネットワークプリンタ等で使用する固定 IP アドレスの発行を行った。

2. 障害対応

・ネットワークの不調に対する対応

・プロキシサーバの不調に対する対応

◆計測処理室業務

計測処理室長 永田 玲央

計測処理室は、本年度より新体制となり、現在は2名体制で業務を行っている。主な業務は、学生の実験実習等の指導で、機械工学科，電気電子工学科，情報工学科の工学実験や機械実習，プログラミング演習等を担当している。その他の業務としては、ロボットコンテスト支援，とよのまなびコンソーシアムおおいた連携講座，技術部ホームページ管理がある。

ロボットコンテスト支援では、主に本室の高橋技術職員が、毎年ロボットコンテスト全国大会を目指すロボット研究部員に対して、ロボット製作全般にわたる指導をおこなっている。

とよのまなびコンソーシアムおおいた連携講座は、大分大学が中心となって県内8大学・高専が連携して行う支援事業のひとつである。この事業の目的は、大分県内の教育レベルの向上である。本年度は、大分県立芸術文化短期大学，日本文理大学，別府溝部学園短期大学と連携して「IT・メディア講座」を実施し，本校では「PowerPoint 講座」を行った。

本校技術部のホームページは，前年度から大幅に内容を見直し，本年度4月よりリニューアルした。その後，主な管理は本室で行っており，定期的に更新を行っている。

3. 技術部関連業務

◆足踏みミシンボランティア活動

設計創造室 岩本 光弘

1. 渡航者：

教員：田中 孝典，技術職員：岩本 光弘，永田 玲央，学生：6名

2. 事業行程

3/21,25：移動日

3/22：事前準備等

3/23：足踏みミシン贈呈および修理技術の指導等

3/24：貧困地域の村 訪問

3. 事業概要

・平成24年度は昨年度と同様にフィリピン共和国において事業を行った。今回は Makati City の St. John Bosco Church において大分県フィリピン友好協会が支援する4箇所の地域自立支援センター（同センターは、台風、豪雨などの自然災害および貧困による孤児等への支援を目的）に贈呈する足踏みミシン23台のうち数台を用いてミシンボランティア学生6名が主体となり、同協会17名のスタッフに対してミシンの修理およびメンテナンスの技術指導等を実施した。また、同スタッフが独力で修理、メンテナンスが出来るように英語に翻訳した修理マニュアル（全22頁）10冊を寄贈した。

・足踏みミシン贈呈および修理技術の指導等の翌日は、大分県フィリピン友好協会が支援している Laguna 県内の農村にある地域自立支援センターを訪問した。同センターのある地域は貧困な農村である。村民の主な収入源は農業によるものであるが、雨季に入ると作物が育たないことから村民らには収入源が無い。この支援センターに贈呈する8台の足踏みを用いて同村民らは交代で縫製品の作製と販売を行うことで季節や気候に影響されずに安定した収入を得ることが出来る。



写真 1 地域自立支援センターにて

◆2012 年度 国際交流基金「地球市民賞」授賞

日 程：平成 25 年 3 月 5 日(火)

会 場：東京都新宿区四谷 国際交流基金本部

題 名：【東南アジア諸国へ向けた、工業高等専門学校による「足踏みミシン」の修理とミシン
寄贈・技術指導による自立支援活動】

受 賞 者：足踏みミシンボランティア

報告内容：

3 月 5 日（火）18 時 30 分から授賞式があり、足踏みミシンボランティア他 2 団体が受賞された。大分県からは、初の受賞団体である。



写真 2 授賞式にて

◆平成 24 年度 第 15 回九州工学教育協会賞受賞

日 程：平成 25 年 2 月 5 日(火)

会 場：九州大学工学部伊都キャンパス 稲盛財団記念館（稲盛ホール(C)）

題 名：「足踏みミシン修理・贈呈ボランティア事業を通じた実践工学教育」

受 賞 者：田中 孝典教授，岩本 光弘

報告内容：

平成 24 年度 九州工学教育協会 総会にて第 15 回九州工学教育協会賞の授賞式に出席。そこで、九州工学教育協会の山田 淳会長より、賞状と記念品を頂いた。

他に、大学、高専の 3 校が同じく受賞した。

1. 「国際連携ものづくり教育の取り組み～デザインキャップとものづくりコンテストの実施～」

熊本大学工学部

2. 「自主を促す工学技術者キャリア教育と高大連携理科教育の実践」

宮崎大学工学部教育研究部

3. 「IT スペシャリストを目指す学生のための基礎力養成講座」

熊本高等専門学校 人間情報システム工学科

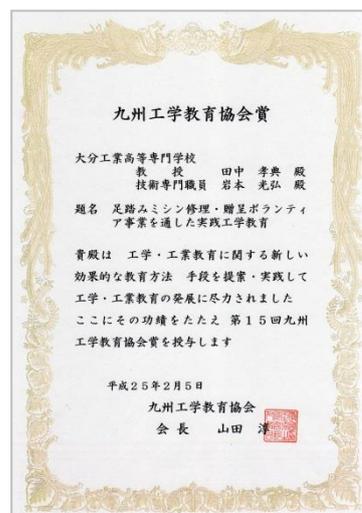


写真 3 賞状

◆ロボットコンテスト支援

計測処理室 高橋 健一

期 間：平成 24 年 4 月 1 日～10 月 21 日

対 象：ロボット研究部

参加人数：20 名

内 容：平成 24 年度の高専ロボコンテーマは「ベスト・ペット」である。ロボットがボールをゴールするまでのタイムを競う。今年度は設計用 PC の貸出（衛藤次長）、基盤加工機貸出（高石室長）全体の製作指導、学生引率（高橋）とフィールド制作を行っている。

表 2 本年度の主なスケジュール

日付	内容	備考
H24/4/27	ロボコン 2012 ルール発表	ロボコン HP にて発表
5/29	校内アイデアプレゼン	専攻科棟 4F アカデミックホール
8/29	第 1 回校内ロボットお披露目	第 1 体育館
9/3	第 2 回校内ロボットお披露目	第 1 体育館
10/21	九州沖縄地区予選	合志市総合センター ヴィーブル

表 3 地区大会結果

	大分高専 A チーム	大分高専 B チーム
チーム名	Nine Birdie	おさんぽ！ぱっちゃんGO
結果	ベスト 4 進出	ベスト 4 進出

◆電気工事士実技講習

解析構造室 高倉 慎

期 間：平成24年7月20日（金）～7月27日（金），11月19日（月）～12月7日（金）

平日：16：00～18：00 休日：9：00～17：00

対 象：電気電子工学科学生

参加人数：3E, 4E 合計 5 名

講 師：藤本 高德，高倉 慎

内 容：第二種電気工事士，筆記試験合格者で電気電子工学科の学生を対象に実技試験対策講座を行った。受講者の 5 名中 4 名が合格した。因みに本試験の合格率は筆記試験で 58.2%，実技試験で 70.6%である。本年度は前後期 2 度の試験が実施されたので，それに合わせ講習会も 2 度実施した。



写真 4 実技試験対策講座の様子



写真 5 実技試験対策講座の様子

4. 地域連携交流センター関連業務

◆コンクリート受託試験

解析構造室 秦 敏和

地域連携交流センター事業の一環として、コンクリート受託試験を実施している。コンクリート試験場（都市・環境工学科 材料工学実験室使用）の受注高は、平成19年度786,300円、平成20年度1,861,400円、平成21年度2,542,000円、平成22年度2,905,400円、平成23年度3,838,200円、平成24年度4,945,300円と平成19年7月開業以来順調に業績を伸ばしている。特にH24年度は前年より百万円以上受注が伸びた。これは、契約業者（試験料後納振込）がH23年度よりさらに2社増えて6社7工場（＝生コン製造業、建設業）となったのが要因である。この他に契約外業者が約3社（建設業・飛込み業者）からも依頼が有る。

試験場職員は、技術部技術職員7名体制（1名＝H24年度末退職、H25年度新採用）で実験実習指導・通常業務と同様に、コンクリート受託試験は午前中を基本に授業が無い技術職員が輪番制で昨年同様実施している。

昨年度の課題であった、「本試験場近郊の生コン工場との契約締結が目的であり、地域に貢献できる試験場を目指す」が80%程度達成できた。さらに、常時試験ができる体制作り（大分県検査室からも指導があった）を目指している。

最後に、地域連携交流センター長からも「コンクリート受託試験に多くの技術職員が関与しており、地域ニーズへの対応とともに、それによる収益金は技術職員の各種の講習会参加費や教員研究の補助等に使用われ、教職員の能力向上につながっています。」と評価されている。

詳細は、大分高専のホームページのトップにコンクリート受託試験があります。

http://techno.oita-ct.ac.jp/~forum/business_sangaku#shiken



写真 6 コンクリート技士登録者

◆科学と遊ぼう！in 山香小学校

技術長 吉岩 哲也

期 間：平成 24 年 8 月 5 日(日) 14:30~16:00

対 象：杵築市立山香小学校

参加人数：生徒 74 名 保護者 35 名

講 師：吉岩 哲也, 永田 玲央

講座内容：『浮沈子をつくろう』

『戻ってくる飛行物体』

『-196℃の世界(液体窒素)』

◆科学と遊ぼう！in 真坂小学校

技術長 吉岩 哲也

期 間：平成 24 年 10 月 19 日(金) 10:45~12:20

対 象：中津市立真坂小学校

参加人数：小学校 5 年生 9 名 6 年生 14 名 2 クラス (23 名)

講 師：吉岩 哲也

講座内容：『浮沈子をつくろう』

『戻ってくる飛行物体』

◆科学と遊ぼう！in 坂ノ市小学校

技術長 吉岩 哲也

期 間：平成 24 年 10 月 28 日(日) 10:30~11:50

対 象：大分市立坂ノ市小学校

参加人数：小学校 4 年生 133 人

講 師：吉岩 哲也

講座内容：『-196℃の世界(液体窒素)』

◆科学と遊ぼう！in 松岡小学校

解析構造室 高倉 慎

日 程：平成 24 年 11 月 4 日（日）

会 場：松岡小学校

対 象：松岡小学校 6 年生

参加人数：児童生徒 131 名

講 師：機械工学科 軽部准教授

電気電子工学科 高橋教授，木本准教授，石川助教

情報工学科 鶴沢教授，油田講師

都市・環境工学科 一宮教授，名木野准教授

技術部 高橋 健一，高倉 慎

講座内容：機械工学科 ビーチアニマルの足を作ろう！

電気電子工学科 光のふしぎ

情報工学科 パソコン解体・線の上を走る車をレゴブロックでつくろう

都市・環境工学科 地震に強い家を作ろう！

◆科学と遊ぼう！in 白杵おもしろ科学クラブ

技術長 吉岩 哲也

期 間：平成 24 年 12 月 15 日(土) 9:00～10:30

対 象：おもしろ科学クラブ

参加人数：小学生 6 年生 9 名，5 年生 8 名，4 年生 6 名

中学生 1 年生 3 名（計 26 名）

講 師：吉岩 哲也

講座内容：『ストロー笛を作ろう』

◆公開講座 「衛星データ利用講座」

解析構造室 高倉 慎

日 程：平成 24 年 10 月 21 日（日）

会 場：大分工業高等専門学校

対 象：小・中学生

参加人数：児童生徒 10 名

講 師：電気電子工学科 高橋教授，木本准教授，辻准教授，上野助教

技術部 高倉 慎

講座内容：ランドサット衛星等から得られる可視光及び赤外線画像を基にパソコンを用いてデータを解析する。

◆青少年のための科学の祭典大分大会 in 大分

計測処理室 永田 玲央

日 程：平成 24 年 11 月 17 日

会 場：大分高専

対 象：一般

来場者数：約 1200 名

講 師：大分高専教員，技術職員 多数

講座内容：今年の「青少年のための科学の祭典」は，本校が主体となって開催された．そのため，講師および補助として本校教職員や学生が多数参加した．また，本校開催ということで，大分大学や九州沖縄地区の高専からの出展も多数あった．1 日のみの開催，および悪天候にも関わらず，来場者数は 1200 名を超え，大盛況であった．アンケート結果からも来場者に満足してもらえたことが分かり，大変満足している．



写真 7 会場の様子



写真 8 ブースでの実験

◆大分市産業活性化プラザ中小企業支援講座

解析構造室 高倉 慎

日 程：平成 25 年 1 月 9 日～1 月 25 日（合計 6 回）

会 場：大分工業高等専門学校

対 象：大分市在住及び勤務の者

参加人数：6 名

講 師：電気電子工学科 清武教授
技術部 高倉 慎

講座内容：CPLD/FPGA を使ったデジタル回路入門

◆第7回おおいた協働ものづくり展

技術長 吉岩 哲也

期 間：平成24年10月7日（日）

対 象：一般市民

参加人数：生徒25名，保護者25名

講 師：吉岩 哲也

講座内容：『浮沈子をつくろう』

『ストロー笛を作ろう』

◆とよのまなびコンソーシアムおおいた連携講座「PowerPoint 講座」

計測処理室 永田 玲央

日 程：平成24年8月25日（土），9月1日（土），9月8日（土）9:00～12:30

会 場：大分高専

対 象：一般市民

参加人数：7名

講 師：永田 玲央，高橋 健一，高石 伸一，木村 健一，山本 佳奈

講座内容：本講座は、PowerPoint の操作を取得すること、プレゼンテーションをすることを主目的とした。今年は、受講生の無駄な拘束時間を減らすために、講座を午前中に集中した。そのため、講座全体として昨年度より1.5時間減ったが、特に大きな問題はなかった。

例年通り、はじめに PowerPoint の基礎講座を行った。ほとんどの受講生がパソコン操作に慣れていたので、講座はスムーズに進めることができた。

受講生によるプレゼンテーションでは、やはりほとんどの受講生が難色を示していたが、いざ発表が始まってみると、非常に堂々としており、内容もすばらしいものであった。発表後の受講生の顔には、充実感が漂っていた。

アンケートの結果から、本年度も非常に満足度の高い講座を実施できたということが分かった。しかし、年々受講生の数が減っているのが大きな問題である。来年度は、市報に掲載するなど、広報を工夫して受講生数の増加を目指したい。来年度も受講生数が少なかった場合、講座の内容を見直す必要があると考えている。

5. 依頼業務

技術長 吉岩 哲也

表 4 平成 24 年度依頼業務一覧

日付	依頼元	依頼者	種別	概要
平成 24 年 4 月 2 日	機械工学科	松本 佳久	その他	入学式時材料費徴収
平成 24 年 4 月 9 日	機械工学科	薬師寺輝敏	実験実習	SolidWorks インストール
平成 24 年 4 月 9 日	学生課学生支援係	木下 城二	その他	校歌 CD 作成
平成 24 年 4 月 9 日	総務課総務係	松吉 孝幸	その他	立て看板修理
平成 24 年 5 月 20 日	一般科理系	二宮 純子	その他	棚取り付け
平成 24 年 5 月 30 日	機械工学科	軽部 周	その他	ロボコンフィールド作成
平成 24 年 5 月 30 日	総務課用度係	梅本 春生	その他	ゴミ箱蓋作成
平成 24 年 6 月 17 日	電気電子工学科	高橋 徹	地域連携教育支援	水ロケット作成・打ち上げ指導
平成 24 年 6 月 22 日	機械工学科	薬師寺輝敏	卒研支援	疲労試験 試験体作成
平成 24 年 6 月 22 日	機械工学科	薬師寺輝敏	卒研支援	機器使用方法指導
平成 24 年 6 月 27 日	機械工学科	尾形公一郎	研究支援	実験装置接続・固定
平成 24 年 6 月 30 日	電気電子工学科	高橋 徹	地域連携教育支援	水ロケット作成・打ち上げ指導
平成 24 年 7 月 11 日	機械工学科	伊東 徳	実験実習	試験片加工
平成 24 年 7 月 24 日	機械工学科	利光 和彦	卒研支援	試験片加工
平成 24 年 7 月 30 日	一般科理系	二宮 純子	地域連携教育支援	夏休み子供サイエンス補助
平成 24 年 8 月 2 日	一般科理系	二宮 純子	地域連携教育支援	日本理科教育学会引率補助
平成 24 年 8 月 24 日	機械工学科	尾形公一郎	研究支援	実験装置接続
平成 24 年 8 月 27 日	機械工学科	松本 佳久	実験実習	架台作成
平成 24 年 9 月 10 日	機械工学科	松本 佳久	その他	装置受け入れ
平成 24 年 9 月 12 日	学生課長	前田 俊哉	その他	前期末試験 試験監督
平成 24 年 10 月 1 日	機械工学科	菊川 裕規	卒研支援	風車翼の作成
平成 24 年 10 月 9 日	機械工学科	福井 航	卒研支援	加工補助
平成 24 年 10 月 9 日	電気電子工学科	清武 博文	研究支援	研究用器具作成
平成 24 年 11 月 1 日	教務主事	清水啓一郎	事務支援	教務システム更新作業
平成 24 年 11 月 5 日	電気電子工学科	清武 博文	地域連携教育支援	公開講座準備および補助
平成 24 年 11 月 8 日	機械工学科	薬師寺輝敏	卒研支援	疲労試験 試験体作成
平成 24 年 11 月 30 日	一般科理系	二宮 純子	課外活動	日本生物工学会九州支部大分大会学生引率
平成 24 年 12 月 13 日	都市・環境工学科	横田 恭平	その他	実験台合板取り付け
平成 24 年 12 月 20 日	一般科理系	二宮 純子	その他	実験台補修および加工
平成 25 年 1 月 24 日	機械工学科	軽部 周	実験実習	工場見学引率補助

6. 研修・出張報告

◆第1回ネットワーク管理者研修会

情報基盤室 木村 健一

日 程：平成24年6月4日（月）～6月5日（火）

会 場：国立オリンピック記念青少年総合センター 国際交流棟

対 象：情報ネットワークシステムの運用管理に携わる教職員

参加人数：146名

参加者：衛藤 賢一，木村 健一

報告内容：本研修の日程を以下に示す。

- ・「ファイアウォール」に関する研修（富士通株式会社）
- ・ファイアウォールの導入事例（都城高専 臼井 昇太）
- ・高専共通システムへのアクセスについて（本部事務局情報企画係）
- ・「認証サーバ」に関する研修
- ・認証サーバの導入事例（苫小牧高専 佐藤 悦教）
- ・高専共通システムの認証について（本部事務局情報企画係）
- ・学認は高専をより魅力的にできるか？ーメリットと参加のための準備ー
（国立情報学研究所 山地 一禎）
- ・学認への参加事例（鈴鹿高専 渥美 清隆）
- ・「ネットワーク認証（スイッチ）」に関する研修（アラクサラネットワークス株式会社）
- ・高専教育機関におけるセキュリティポリシーのクラウド対応について
（神戸学院大学 小川 賢）

本研修では、高専機構として導入が予定されているファイアウォール、認証サーバについて、先行導入校の事例発表があった。また、高専機構からは今後の構想として高専共通システムの認証、学認の提案があった。

◆九州5高専校内LAN共同調達仕様策定委員会

技術次長 衛藤 賢一

日 程：平成24年6月12日（火）～6月13日（水）

会 場：佐世保高専

参加者：衛藤 賢一

報告内容：仕様書の最終確認

◆平成 24 年度西日本地域高等専門学校技術職員特別研修会（建築・環境系）

解析構造室 山本 佳奈

日 程：平成 24 年 8 月 22 日（水）～24 日（金）

会 場：豊橋技術科学大学

対 象：西日本地域 34 高専の建設，環境系の技術職員

参加人数：17 名

参 加 者：山本 佳奈

報告内容： この特別研修では高専の技術職員に対して職務を遂行する上で必要な高度な専門的知識を修得させ、技術職員の資質の向上を図ることを目的とするものであり、西日本地域 34 高専の建設，環境系の技術職員を対象に行われた。

1 日目には豊橋技術科学大学 稲垣康善理事・副学長から「技術、それは使ってこそ、使われてこそ」、熊本工業高等専門学校 宮川英明校長から「これから求められる人材とモチベーションについて」の二つの特別講演があった。

午後からは建築（土木）系と環境系に分かれ、学内の施設見学を行った。研究室や実験室はもちろん、学生が普段どのように施設を利用しているのか、また豊橋市の環境についても説明頂いた。

その後、豊橋技科大の技術職員の方を交えた班別討議があり、「技術職員の減少に対する対応について」、「技術職員のスキルアップについて」、「安全対策について」、「地域への関わりについて」、の 4 テーマで班に分かれ討議を行い、考えられる対応についてまとめ、発表した。

2 日目は午前中に環境系の、3 日目に建設系の技術課題発表があった。各高専の技術職員の日頃の業務、科研費での研究や受託研究、外部に向けた講座、実習での教育効果について等、専門も様々に幅広い発表が行われた。私自身は夏休みに実施している集中講義について発表をし、参加されている技術職員や助言者の先生方から貴重な意見を頂いた。

2 日目の午後には豊橋技科大の後藤尚弘准教授、木曾祥秋教授、松本博教授、熊本高専技術センター長の河崎功三教授の 4 名の先生方からの講義を受けた。木曾教授による「小規模排水処理施設と水質管理ツールの開発」では、水質調査時に使用する簡易測定器の精度、操作性についてのお話もあり、大変興味深かった。

今回の研修では様々な講義、発表で新しい知識を得られ、また他高専の技術職員、技科大の先生、技術職員の方との交流も出来た大変充実した 3 日間だった。今回学んだことを日頃の業務や今後の活動に生かしたい。

◆平成 24 年度全国高専教育フォーラム

設計創造室 岩本 光弘

日 程：平成 24 年 8 月 28 日(火)～30 日(木)

会 場：国立オリンピック記念青少年総合センター（センター棟）

対 象：国公立高等専門学校，長岡技術科学大学及び豊橋技術科学大学の教職員

参加人数：500 名以上（発表者，公聴者含む）

参 加 者：岩本 光弘，木村 健一

報告内容： 高等専門学校制度創立 50 周年記念にあたる，平成 24 年度全国高専教育フォーラムにて，「足踏みミシンの贈呈および修理技術指導を通じた国際ボランティア活動について」岩本が発表した。このフォーラムは高等学校における教育研究成果に関する発表の場を設けることにより，高等専門学校の振興と教職員の教育研究業績の向上に資することを目的としている。

研究発表の分類としては，個人研究部門（個人または複数の教職員における教育研究成果）の教育研究分野（地域理科教育支援，教育の国際化等）である。この分野の発表では，足踏みミシンボランティア活動のことを他高専や他大学の教職員に知ってもらうことができた。質疑応答では「とてもよい活動をしていますね，これからも頑張って活動を続けて下さい。」とお褒めの言葉を頂いた。公聴では，木村の専門としている情報基盤整備分野（ICT 活用，校内 LAN）で先に導入している他高専の情報などを知ることができ有意義な公聴となった。



写真 9 発表の様子

◆九州沖縄地区国立工業高等専門学校技術職員研修（電気・電子系，情報系）

計測処理室 永田 玲央

日 程：平成 24 年 9 月 5 日（水）～9 月 7 日（金）

会 場：熊本高専 熊本キャンパス

対 象：九州沖縄地区国立高等専門学校の技術職員（電気・電子系，情報系）

参加人数：14 名

参 加 者：高石 伸一，高倉 慎，永田 玲央

報告内容：本研修の日程を以下に示す。

講義 I「組織と管理運営」 熊本高専校長 宮川英明

講義 II「服務と規律」 熊本高専事務部長 米澤宏

技術課題等の発表及び自由討議

助言者 熊本高専情報通信エレクトロニクス工学科准教授 高倉健一郎

人間情報システム工学科准教授 藤井慶

班別討議 「各高専における技術職員の活動状況とそれに係る諸問題について」

発表及び全体討議 司会：熊本高専技術長 上杉一秀

講義 III「安全衛生について」 熊本高専産業医 古海勝彦

特別講演 I「スマホ with Cloud 知っておきたいスマートフォンとクラウドストレージの連携」

熊本高専情報通信エレクトロニクス工学科准教授 永田和生

学科及び技術センター施設見学

講演及び実習 「Arduino を用いた自律移動ロボットの製作と実習」

熊本高専情報通信エレクトロニクス工学科教授 葉山清輝

研修は、3 日間の日程で実施された。講演 I，II および III では、技術職員としての基本的なことを再確認した。発表および自由討議は、各高専で行われている技術開発や研究等について知るためのよい機会となった。私は、本校で実施している講座の現状について報告した。貴重な助言をいただくことができ、今後の講座運営に活かしていこうと考えた。Arduino を用いた実習では、自律制御の基礎を学ぶことができた。また、制御アルゴリズムを考えることの大変さを改めて体験することができた。

◆九州沖縄地区国立大学法人等技術職員スキルアップ研修 A

計測処理室 永田 玲央

日 程：平成 24 年 9 月 12 日（水）～9 月 14 日（金）

会 場：熊本大学

対 象：九州地区国立大学法人等の技術職員

参加人数：57 名

参 加 者：永田 玲央

報告内容：本研修の日程を以下に示す。

講演 1「熊本大学震災復興・日本再生支援事業-気仙沼湾海底調査-」

熊本大学沿岸域環境科学教育研究センター 秋元和實 准教授

講演 2「熊本大学の人事評価について」熊本大学人事・労務ユニット 野々原慎治 係長

「工学部技術部における人事評価の取り組み」熊本大学工学部技術部 神澤龍市 副技術長

分野別講義・実習

機械コース「電気系とのアナロジーを意識した機械振動実験」

熊本大学大学院自然科学研究科 鳥越一平 教授，水本郁朗 准教授

電気・電子コース「振幅変調・復調回路」

熊本大学大学院自然科学研究科 福迫武 准教授

情報処理コース「MySQL で簡単データベース」

熊本大学総合情報基盤センター 杉谷賢一 教授

講演 3「熊本大学の自然エネルギー導入への取り組み」

熊本大学工学部寄附講座 田中昭雄 特任教授

見学

自然エネルギー導入実験施設，革新ものづくり教育センター&ものクリ工房，
ソーラーカー他

研修は，3 日間の日程で開催された。講演では，熊本大学が積極的に震災復興や，自然エネルギー導入等への取り組みを行っていることが紹介された。分野別講義・実習では，情報処理コースに参加し，データベースの基礎を学ぶことができた。ものクリ工房における，学生のライセンス制度は大変興味深い制度だと感じた。



写真 10 集合写真

◆全国国立大学法人等情報化発表会

技術次長 衛藤 賢一

日 程：平成 24 年 10 月 25 日（木）～10 月 26 日（金）
会 場：九州大学
対 象：国立大学法人等の情報化推進に携わっている職員
参 加 者：衛藤 賢一
報告内容：情報化への取り組みについての研究発表

◆九州地区ファイアウォールのハンズオントレーニング

情報基盤室 木村 健一

日 程：平成 24 年 11 月 22 日（木）
会 場：熊本高専八代キャンパス 龍峰会館
対 象：九州地区の情報ネットワークシステムの運用管理に携わる教職員
参加人数：71 名
参 加 者：衛藤 賢一，木村 健一
報告内容：本研修の内容を以下に示す。

- ・ファイアウォール製品「Fortigate」を使ったハンズオントレーニング
- ・WebGUI へのアクセス
- ・アンチウイルスの設定方法
- ・Web フィルタリングの設定方法
- ・アプリケーションコントロールの設定方法

今年度、高専機構によって全高専へ共通のネットワーク機器導入が行われる。そのため、全高専に対し導入機器の管理運用に関する研修が行われている。今回の研修では、実機を用いてファイアウォールに対する設定や動作確認を行った。

◆平成 24 年度九州地区国立大学法人等事務情報化担当者連絡会議

技術次長 衛藤 賢一

日 程：平成 24 年 11 月 27 日（火）

会 場：福岡教育大学

対 象：九州地区国立大学法人等の情報化推進に携わっている職員

参 加 者：衛藤 賢一

報告内容：

(1) 協議題

- 各種事務システム担当要員に配置について（宮崎大学）
- 全学的な情報セキュリティ対策について（九州工業大学）
- 情報セキュリティポリシーの整備と罰則規定について（沖縄高専）
- 後援会・協力会のネットワーク接続及び PC 利用・包括ライセンスの利用について（沖縄高専）
- 電子メール添付を利用した大容量ファイルの送信について（沖縄高専）

(2) 承合事項

- ヘルプデスクの外注化について（宮崎大学）
- 各種システムについて（宮崎大学）
- 外部記憶媒体の取り扱いについて（鹿児島大学）
- フリーソフトの使用状況について（鹿屋体育大学）
- BCP 対策におけるデータバックアップについて（琉球大学）
- 部局を越えた情報の共有についての規定や手順等の制定について（琉球大学）
- 出欠管理システムの導入状況について（長崎大学）
- 仮想デスクトップ環境の導入状況について（九州大学）
- バックアップについて（九州大学）
- 仮想化の現状と計画について（佐賀大学）

◆国立高等専門学校機構 情報担当者研修会

情報基盤室 木村 健一

日 程：平成 25 年 1 月 9 日（水）～11 日（金）

会 場：国立オリンピック記念青少年総合センター センター棟

対 象：情報ネットワークシステムの運用管理に携わる教職員

参加人数：160 名

参 加 者：衛藤 賢一，木村 健一

報告内容： 初日は、高専機構における認証基盤として全高専に導入するファイアウォール、認証サーバに関して講義があり、認証サーバの利用例として学認の紹介も行われた。2 日目は、無線 LAN、IPv6、クラウド、ソーシャルメディア、サイバー攻撃事例と対策、著作権など情報基盤を管理運用する上で考慮すべき事項について、専門家による講義が行われた。3 日目は、情報セキュリティ監査、ソフトウェア管理について講義が行われ、高専機構として導入している IT 資産管理システムについて講義が行われた。

◆平成 24 年度情報セキュリティセミナー

技術次長 衛藤 賢一

日 程：平成 25 年 11 月 27 日（火）

会 場：文部科学省

対 象：国公立大学、国公立高専、独法、共同利用機関等の情報セキュリティ対策担当者(教員・事務職員)

参加人数：400 名

参 加 者：衛藤 賢一

報告内容：

- 1) ウェブサイトに対する最近のサーバ攻撃事案の傾向
講師 株式会社ラック 西本逸郎
- 2) ウェブサイトに必要なセキュリティ対策
講師 独立行政法人情報処理推進機構 永安 佑希允
- 3) 組織としてのインシデント対応
講師 総務省 情報通信国際戦略局 上原 哲太郎
- 4) 情報セキュリティ人材育成の重要性
講師 内閣官房情報セキュリティセンター 占部 浩一郎

◆第 8 回情報技術研究会

情報基盤室 木村 健一

日 程：平成 25 年 3 月 18 日（月）～19 日（火）

会 場：九州工業大学情報工学部

対 象：大学，高等専門学校，研究機関等の技術職員

参加人数：73 名

参 加 者：山崎 勝翁，木村 健一

報告内容： 本研究会では，全国各機関の情報技術を利用したシステムおよびサービス提供の事例について発表が行われる。2 日間で技術発表が全 5 セッション行われ，18 題目の発表が行われた。また，意見交換の時間が各日に用意されているため，発表の際に質疑時間が不足した場合も個別に話を聞くことが可能である。各機関における最新の取組や傾向を知ることで，今後の本校における取組の参考にすることができる。

7. 資料

◆大分工業高等専門学校技術部規程

制 定 平成 16 年 4 月 1 日
最終改正 平成 20 年 11 月 12 日

(趣旨)

第 1 条 この規程は、独立行政法人国立高等専門学校機構の本部事務局の組織等に関する規則（平成 16 年 4 月 1 日制定）第 12 条第 9 項及び大分工業高等専門学校組織運営規則（平成 20 年 3 月 14 日制定）第 10 条の規定に基づき、技術部の運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(業務)

第 2 条 技術部においては、次の各号に掲げる業務を遂行する。

- 一 学生の実験、実習及び卒業研究の技術的指導に関すること。
- 二 教員の教育研究活動の支援に関すること。
- 三 外部からの技術相談に関すること。
- 四 学生の課外活動の技術的指導に関すること。
- 五 技術部に関係する機器の保守・管理に関すること。
- 六 新技術の開発に関すること。
- 七 その他技術部に関すること。

(組織等)

第 3 条 技術部に当該業務を遂行するため、技術長、技術次長、室長及び技術部員を置く。

- 2 技術部長は、専任の教員をもって充て校長が任命する。
- 3 技術部長は、技術部の業務を掌理する。
- 4 技術長、技術次長及び室長は、技術専門員又は技術専門職員をもって充てる。
- 5 技術長は、技術部員を統括し当該業務を遂行すると共に、技術部員に対し技術的な指導及び育成に当たる。
- 6 技術次長は、技術長を補佐する。
- 7 室長は、上司の命を受け、当該部門の業務を遂行すると共に、同室に所属する職員に対し技術的な指導及び育成に当たる。
- 8 技術部員は、技術職員（施設系は除く。）をもって充て、技術部の業務に従事する。

(業務分掌)

第 4 条 技術部にその所掌を分掌させるため、設計創造室、解析構造室、情報基盤室及び計測処理室の 4 室置き業務を遂行する。

(技術部運営委員会)

第 5 条 技術部の管理及び運営に関する必要事項を審議するため、技術部運営委員会（以下「委員会」という。）を置く。

- 2 委員会に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この規程は、平成 16 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規程は、平成 19 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規程は、平成 20 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規程は、平成 20 年 11 月 12 日から施行し、平成 20 年 11 月 1 日から適用する。

◆大分工業高等専門学校技術部運用内規

制 定 平成 16 年 4 月 1 日
改 正 平成 20 年 11 月 12 日

(目的)

第 1 条 この内規は、大分工業高等専門学校技術部規程第 2 条に規定する業務を円滑に行うため必要事項を定める。

(業務の依頼)

第 2 条 大分工業高等専門学校技術部に業務を依頼する際の手続は、以下のとおりとし、別紙様式により行う。

- 一 前期又は後期若しくは前期及び後期を通しての学生の実験・実習については、学科等の単位でまとめ主任等名で所定の時期に技術部長に依頼する。
- 二 教員の教育研究活動の支援及び卒業研究指導については、別途前号の規定により依頼する。ただし、期間は、年度を越えない。
- 三 学生の課外活動の技術的指導については、クラブ顧問から技術部長に依頼する。
- 四 その他、不定期の業務については、担当者から技術部長に依頼する。

(業務の決定)

第 3 条 技術部の業務は、技術部運営委員会（以下「運営委員会」という。）で決定する。ただし、軽易なもの、緊急を要するものについては、技術部長が決定することができる。技術部長は、その際決定した業務を運営委員会に報告しなければならない。

(業務の遂行)

第 4 条 業務の遂行に当たっては、チームを編成することができる。その際のチームは、4 室の中から当該業務の遂行に必要な技術職員で編集する。

- 2 技術部員は、担当する業務を遂行する際には、担当教員と調整する。
- 3 技術部員は、担当する業務を遂行すると共に、技術の向上を図るため自己研鑽に努める。

(連絡調整)

第 5 条 学科等との連絡調整を円滑かつ的確に行うため、技術次長及び室長の中から必要に応じ学科等毎の連絡責任者を置く。

- 2 技術部内の連絡調整は、設計創造室において行う。

(技術部員の研修)

第 6 条 技術部長は、技術部員の資質の向上を図るため、研修会を計画し又は他機関で開催される研修会に参加させるよう努めなければならない。

附 則

この内規は、平成 16 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この内規は、平成 20 年 11 月 12 日から施行し、平成 20 年 11 月 1 日から適用する。

◆技術職員が取得している資格・免許・国家試験合格者など

技術職員は様々な資格を所有しそれを実験、実習、公開講座、外部委託事業等の場において生かしている。

技術部職員が取得している免許・資格・試験名など 平成 25 年 3 月 31 日現在

免許・資格・試験名など	取得数	免許・資格・試験名など	取得数
(国家公務員採用試験など) ・国家公務員採用試験（初級） ・国家公務員採用試験（Ⅱ種） ・国立大学法人等職員採用試験	3 3 2	(電気・電子分野) ・第二種電気工事士 ・特殊無線技士（無線電話乙） ・第三種電気主任技術者	2 1 1
(学位) ・修士 ・学士 ・準学士	1 3 4	(情報分野) ・基本情報技術者試験 ・CAD 利用技術者 2 級 ・3 次元 CAD 利用技術者 2 級 ・ソフトウェア開発技術者 ・Microsoft Office Specialist Word 2003 ・Microsoft Office Specialist Excel 2003 ・CSWA, Certified SolidWorks Associate ・3 次元 CAD 利用技術者準 1 級 ・3 次元 CAD 利用技術者 1 級	2 6 7 2 7 9 1 1 1
(機械分野) ・ガス溶接作業主任者 ・ガス溶接技能講習修了証 ・アーク溶接作業特別教育修了証 ・2 級ボイラ技士免許 ・2 級技能検定（普通旋盤） ・研削砥石作業特別教育修了証 ・訓練指導員免許 機械科 ・訓練指導員免許 メカトロニクス科	1 3 1 2 1 2 1 1	(その他) ・危険物取扱者 乙種 第 4 類 ・クレーン運転士 ・玉掛技能講習 ・大型運転免許 ・アマチュア無線技士 ・小型移動式クレーン	1 1 1 1 5 1
(都市システム分野) ・コンクリート技士 ・測量士補 ・川砂利採取主任業務管理者	3 1 1		

◆技術部業務報告書作成にあたっての取り決め事項（平成 20 年 3 月）

- 目的** 技術部の年間の活動事跡を記すことにより、当該年度の総括と次年度の業務遂行に反映させることを目的とする。
- 名称** 技術部業務報告書編集委員会とする。
- 委員** 編集委員は技術部員で構成し、編集委員長は技術長が委嘱する。
編集委員は技術部会議で選出する。委員は委員長と技術長を含め 5 名以内とし、任期は 1 年とする。
- 役務** 編集委員長は年間の編集計画を立案提示し、編集全体の取りまとめを行う。
編集委員は、編集委員長の要請を受け、報告書作成までの業務を行う。
- 経費** 主たる経費（印刷用紙、ファイル、印刷代）は技術部予算から充当する。
- 発行** 3 月中旬までに原稿を集約し、次年度当初に発行する。原則、学内配布とする。
技術部のホームページに UP する。
- その他** 報告書の発行に関して変更がある場合は、当該年度の編集委員会で決定し、技術部員に周知する。

平成 24 年度 技術部業務報告書

平成 25 年 3 月 31 日

編集委員長	木村 健一 (情報基盤室)
編集委員	岩本 光弘 (設計創造室)
	高倉 慎 (解析構造室)
	高橋 健一 (計測処理室)
	吉岩 哲也 (技術長)

大分工業高等専門学校 技術部
〒870-0152 大分市大字牧 1666 番地